

令和5年度 臨床統合試験問題

本試験(5)

令和6年2月7日(水)

注意事項

1. 指示があるまで問題冊子を開かないこと。
2. 問題冊子の学生番号・氏名欄を記入すること。
3. マークシートの番号、氏名欄は裏表紙の記入上の注意に従い、解答も含め鉛筆で記入すること。ボールペン等での記入、未・誤記入の解答は無効です。
4. この問題冊子は試験終了後回収するので持ち帰らないこと。
5. 問題は5肢単純択一形式、X2形式(「2つ選べ」)およびX3形式(「3つ選べ」)です。消し忘れ等不明瞭な解答は無効です。

学生番号	氏 名
B M	

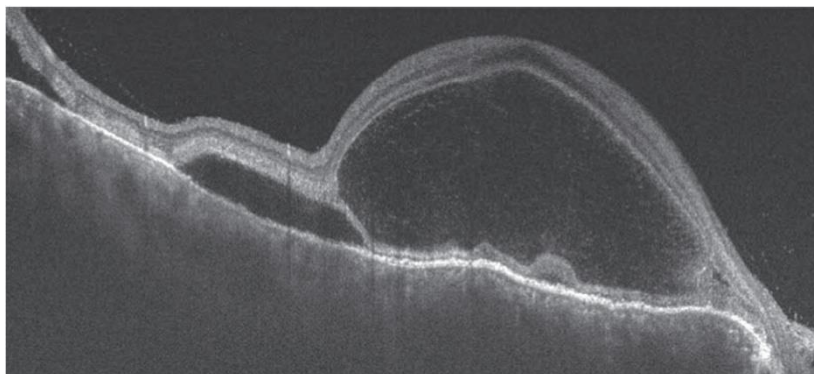
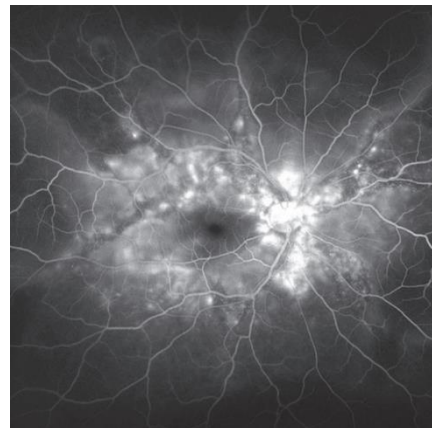
臨床統合試験問題

第 1 問

52 歳の女性。視力低下を主訴に来院した。3 日前から耳鳴り、頭痛があり、昨日から両眼とも見えにくくなった。視力は右眼 0.02(0.05×S+2.5 D)、左眼 0.02(0.06×S+1.75 D)、眼圧は右眼 12 mmHg、左眼 13 mmHg である。右眼の眼底写真、蛍光眼底造影写真、および黄斑部の光干渉断層計(OCT)像を別に示す。左眼も同様の所見であった。

確定診断に有用な検査はどれか。

1. 針反応
2. 脳脊髄液検査
3. パッチテスト
4. ツベルクリン反応
5. 胸部エックス線検査



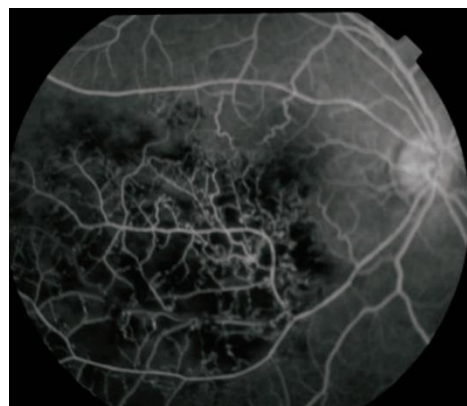
臨床統合試験問題

第 2 問

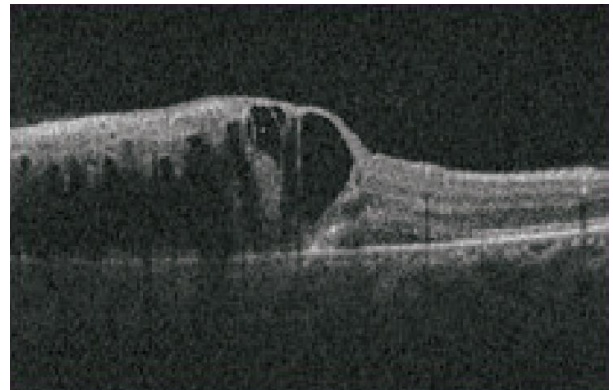
58 歳の男性。1か月前からの右眼の視力低下を主訴に来院した。視力は右 0.1(0.3×S-1.0 D)、左 0.7(1.2×S -1.0 D)。眼圧は右 12 mmHg、左 11 mmHg。前眼部、中間透光体に異常を認めない。カラー眼底写真、蛍光眼底写真、黄斑部の光干渉断層計(OCT)像を別に示す。

この患者に対してまず行うべき治療はどれか。

1. 強膜内陥術
2. 硝子体手術
3. 光線力学的療法
4. 抗 VEGF 薬硝子体注射
5. 副腎皮質ステロイド内服



黄斑部の水平断像



黄斑部の垂直断像

臨床統合試験問題

第 3 問

14 歳の男子。1 か月前からの両眼の癢痒感と 1 週間からの左眼視力低下を主訴に来院した。矯正視力は右 1.0、左 0.4。左上眼瞼を翻転した写真を別に示す。診断はどれか。

1. 霰粒腫
2. 麦粒腫
3. 春季カタル
4. 流行性角結膜炎
5. クラミジア結膜炎



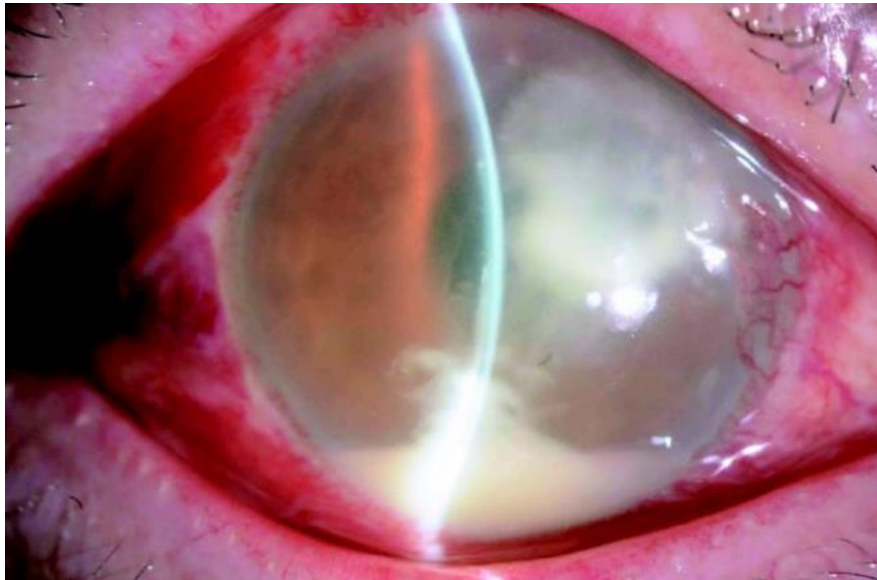
臨床統合試験問題

第 4 問

67歳の男性。左眼痛と視力低下を主訴に来院した。7日前に植木のせん定をしていた時に、木の枝が左眼に当たったという。翌日から左眼痛と視力低下を自覚し、次第に症状が悪化した。左眼の前眼部写真を別に示す。左眼の視力は眼前手動弁。眼圧は右 16 mmHg、左 18 mmHg。

最初に病変を生じた部位はどれか。

1. 結膜
2. 角膜
3. 前房
4. 虹彩
5. 水晶体



臨床統合試験問題

第 5 問

眼科救急疾患と初期対応の組み合わせで正しいのはどれか

- | | | |
|--------------|-------|--------------|
| 1. 眼科蜂巣炎 | ----- | 炭酸脱水酵素阻害薬の内服 |
| 2. 急性涙嚢炎 | ----- | アトロピン点眼 |
| 3. 急性ぶどう膜炎 | ----- | ピロカルピン点眼 |
| 4. 裂孔原生網膜剥離 | ----- | 副腎皮質ステロイド点眼 |
| 5. 網膜中心動脈閉塞症 | ----- | 眼球マッサージ |

臨床統合試験問題

第 6 問

散瞳して行う検査はどれか。

1. 視野検査
2. 調節検査
3. 隅角検査
4. 両眼視機能検査
5. 蛍光眼底造影検査

臨床統合試験問題

第 7 問

遠点が 50 cm、近点が 25 cm の成人の眼の調節力はどれか。

1. 1.0D
2. 2.0D
3. 4.0D
4. 6.0D
5. 8.0D

臨床統合試験問題

第 8 問

網膜芽細胞腫について正しいのはどれか。

1. 男児に多い。
2. 良性腫瘍である。
3. 学童期にみられる。
4. 石灰化がみられる。
5. 結膜充血がみられる。

臨床統合試験問題

第 9 問

夜盲を訴える患者の診断に有用な検査はどれか。2 つ選べ。

1. 隅角検査
2. 視野検査
3. 網膜電図
4. 角膜知覚検査
5. Hess 赤緑試験

臨床統合試験問題

第 10 問

中心性漿液性脈絡網膜症について誤っているのはどれか。

1. 夜盲を自覚する。
2. 変視症を自覚する。
3. 自然治癒することが多い。
4. 蛍光眼底造影が有用である。
5. 光干渉断層計 (OCT) が有用である。

臨床統合試験問題

第 11 問

19 歳の男性。実験中に水酸化ナトリウム液を右眼に浴び、救急受診した。意識は清明。右眼の結膜浮腫が著明であり、角膜が白濁している。

まず行うべきなのはどれか。

1. 鎮痛薬の内服
2. 希塩酸液の点眼
3. 抗菌薬の点滴静注
4. 生理食塩液での洗眼
5. 高浸透圧利尿薬の点滴静注

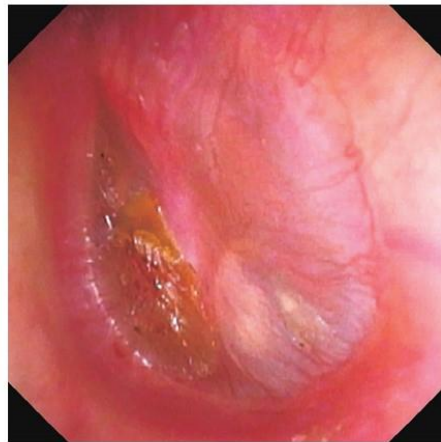
臨床統合試験問題

第 12 問

5歳の女兒。発熱と両耳痛とを主訴に来院した。3日前に鼻汁と咳が出現したが、そのままにしていた。昨日から発熱と両耳痛が出現し、母親の呼びかけに対する反応が悪くなった。機嫌も悪く、食欲も低下している。意識は清明。身長 105 cm、体重 17 kg。体温 39.2℃。呼吸音に異常を認めない。その他の身体所見に異常を認めない。耳介と外耳道とに異常を認めない。左鼓膜写真を示す。

適切な治療はどれか。2つ選べ。

1. 鼓膜切開
2. 耳管通気
3. 抗菌薬投与
4. 副鼻腔洗浄
5. 副腎皮質ステロイド静注



第12問

臨床統合試験問題

第 13 問

外耳疾患に関する記述で誤った組み合わせはどれか。2つ選べ。

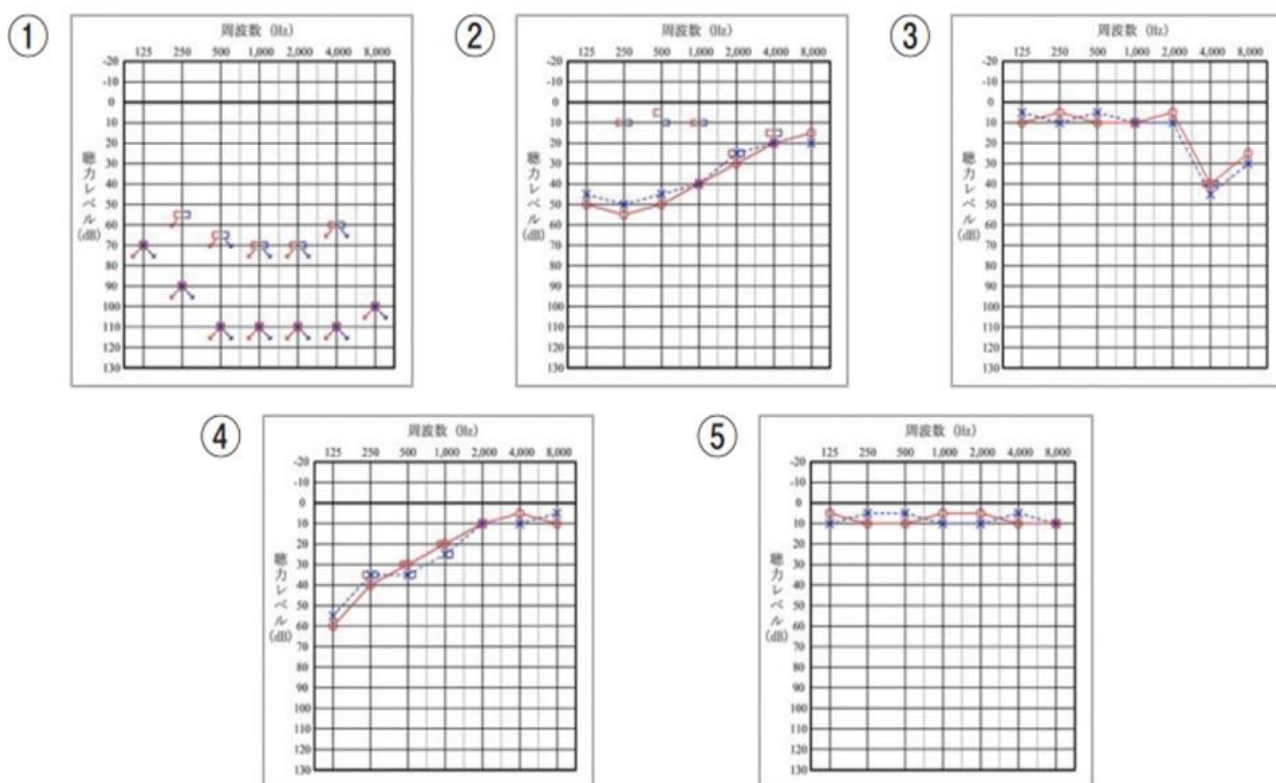
1. 悪性外耳道炎 — 糖尿病
2. 外耳道真菌症 — イヤホン
3. 外耳道真珠腫 — 反復性中耳炎
4. 外耳道閉鎖 — 第三鰓弓
5. 急性化膿性限局性外耳炎 — 耳かき

臨床統合試験問題

第 14 問

28 歳の男性。両耳の耳鳴を主訴に来院した。1 年前から高音の耳鳴と軽い難聴を自覚していたが、会話に支障はなかった。耳鳴が徐々に増悪してきたので受診した。小児期から現在まで耳痛、耳漏の自覚はない。片道 2 時間の高校・大学の通学時には、大きな音量で音楽をイヤホンで聴いていた。社会人になった後も、通勤時には毎日 3 時間はイヤホンで音楽を聴いている。両側の鼓膜は正常で、側頭骨 CT でも異常を認めなかった。

別に示すオーディオグラムの中でこの患者のオーディオグラムとして最も適切なのはどれか。



1. ①
2. ②
3. ③
4. ④
5. ⑤

臨床統合試験問題

第 15 問

良性発作性頭位めまい症について正しいのはどれか。

1. 難聴を伴う。
2. 小児に好発する。
3. 一過性の意識消失を伴う。
4. 頭位変換時に眼振を示す。
5. 浮遊耳石は半規管由来である。

臨床統合試験問題

第 16 問

上顎洞が開口するのはどれか。

1. 嗅裂
2. 上鼻道
3. 中鼻道
4. 下鼻道
5. 上咽頭

臨床統合試験問題

第 17 問

鼻中隔彎曲症について正しいのはどれか。3 つ選べ。

1. 鼻中隔の彎曲は成人では半数以上にみられる。
2. 棘や櫛は骨・軟骨接合部に多い局所的な突起である。
3. 主症状は鼻閉塞や頭重感である。
4. 鼻腔通気度検査で、鼻腔の断面積を評価する。
5. 治療は抗ヒスタミン薬を用いる。

臨床統合試験問題

第 18 問

発声能力を定量的に表す最長発生持続時間に影響しないのはどれか。

1. 性別
2. 年齢
3. 呼吸機能
4. 鼻閉の程度
5. 声門閉鎖の程度

臨床統合試験問題

第 19 問

嗄声ができる可能性が低いのはどれか。

1. 声帯結節
2. 喉頭癌
3. 声帯ポリープ
4. 喉頭肉芽腫
5. 浮腫状声帯

臨床統合試験問題

第 20 問

アデノイド増殖症による症状として出現する可能性があるのはどれか。3 つ選べ。

1. 嗄声
2. 難聴
3. 鼻閉
4. いびき
5. 嚥下障害

臨床統合試験問題

第 21 問

52 歳の男性。咽頭痛と呼吸困難を主訴に深夜の救急外来を受診した。4 時間前から強い嚥下痛のため食事が摂れなくなった。2 時間前から呼吸困難を自覚するようになった。

体温 38.5 °C。脈拍 96/分、整。血圧 150/90 mmHg。呼吸数 30/分。SpO₂ 92 %(room air)。喉頭内視鏡像を別に示す。

まず行うのはどれか。

1. 気道確保
2. 経鼻胃管挿入
3. 自宅安静の指示
4. 消炎鎮痛薬の投与
5. 内視鏡下切開排膿



臨床統合試験問題

第 22 問

74 歳の男性。2 年前に下咽頭後壁の表在癌に対して経口的粘膜下切除術を受け、その後局所再発を認めていない。喫煙歴は 72 歳まで 15 本/日を 45 年間。以前は飲酒ですぐ顔が赤くなったが、徐々に飲酒量が増え、前回手術までは焼酎 500 mL/日を飲酒していた。

この患者で経過中に重複癌を生じる可能性が最も高い部位はどれか。

1. 口腔
2. 喉頭
3. 食道
4. 胃
5. 十二指腸

臨床統合試験問題

第 23 問

66 歳の女性。左耳閉感を主訴に来院した。2 週間前から左耳閉感を自覚するようになったため受診した。耳痛やめまいはない。鼻腔内および口腔内に異常を認めない。左上頸部に硬い腫瘤を複数触知する。左耳の鼓膜写真を別に示す。

病変の有無を確認すべき部位はどれか。



1. 耳下腺
2. 上咽頭
3. 中咽頭
4. 下咽頭
5. 喉頭

臨床統合試験問題

第 24 問

28 歳の男性。鼻閉と鼻漏を主訴に来院した。8 年前から通年性に鼻閉、水様性鼻汁およびくしゃみを認めていた。体温 36.0 °C。鼻粘膜は蒼白で浮腫状、総鼻道は閉塞していた。副鼻腔エックス線写真で上顎洞粘膜の肥厚を認めた。

治療として適切でないのはどれか。

1. 抗菌薬内服
2. 減感作療法
3. 鼻内レーザー手術
4. 抗ヒスタミン薬内服
5. 副腎皮質ステロイド点鼻

臨床統合試験問題

第 25 問

72 歳の男性。2 年前に喉頭癌に対して放射線治療を受け、その後再発を認めていない。喫煙は喉頭癌の診断まで 20 本/日を 45 年間。飲酒は焼酎 200 mL/日を 40 年間。

この患者で経過中に重複癌を生じる可能性が低い部位はどれか。

1. 口腔
2. 下咽頭
3. 肺
4. 食道
5. 陰茎

臨床統合試験問題

第 26 問

64 歳の男性。両側顎下部の腫脹を主訴に来院した。1 年前から家人に両まぶたが腫れていると指摘されるようになった。2 週前から両側顎下部に痛みを伴わない腫脹が出現し、腫れが持続するため受診した。体温 36.5 °C。脈拍 64/分、整。血圧 110/76 mmHg。両側顎下部に径 2cm の腫瘤を触知し、圧迫により唾液流出を認める。圧痛はない。咽頭、喉頭に腫瘤性病変を認めない。血液所見:赤血球 445 万、Hb14.6 g/dL、Ht44 %、白血球 5,500、血小板 27 万。血液生化学所見:総蛋白 7.8 g/dL、アルブミン 4.5 g/dL、IgG1,714 mg/dL(基準 960~1,960)、IgA 274 mg/dL(基準 110~410)、IgM 55 mg/dL(基準 65~350)、IgG4 515 mg/dL(基準 4.8~105)、総ビリルビン 2.1 mg/dL、AST 26 U/L、ALT 35 U/L、 γ -GT 118 U/L(基準 8~50)、アミラーゼ 170 U/L(基準 37~160)、尿素窒素 18 mg/dL、クレアチニン 1.0 mg/dL、血糖 124 mg/dL、HbA1c 6.3 %(基準 4.6~6.2)。免疫血清学所見:抗核抗体陰性、リウマトイド因子<RF>陰性、CH₅₀ 20 U/mL(基準 30~40)、C3 38 mg/dL(基準 52~112)、C4 8 mg/dL(基準 16~51)。頸部造影 CT を別に示す。右顎下腺生検病理組織では、著明なリンパ球、形質細胞の浸潤と線維化を認めた。免疫染色では IgG4/IgG 陽性細胞比 50 %、IgG4 陽性形質細胞 50/HPF であった。

この患者で認める可能性が低い所見はどれか。

1. 両側涙腺腫大
2. 腭びまん性腫大
3. 総胆管の壁肥厚
4. 多発性骨融解像
5. びまん性腎腫大



臨床統合試験問題

第 27 問

口腔内アフタの存在が診断に有用なのはどれか。

1. 腸結核
2. Crohn 病
3. 大腸憩室症
4. 虚血性大腸炎
5. 過敏性腸症候群

臨床統合試験問題

第 28 問

73 歳の女性。口腔粘膜疹と皮疹を主訴に来院した。2 か月前から口腔粘膜にびらんを生じ、摂食時に疼痛を伴うようになった。自宅近くの診療所でうがい薬を処方されたがびらんが拡大し、2 週前から皮膚にも水疱とびらんが出現したため受診した。受診時、歯肉と口蓋部に発赤を伴うびらんを多数認める。体幹と四肢には径 15 mm までの紅斑、水疱、びらん及び痂皮を認める。皮膚生検で表皮基底層直上に裂隙を認め、棘融解像を伴う。蛍光抗体直接法では表皮下層を中心に表皮細胞間に IgG、C3 の沈着を認める。口腔粘膜と上肢の写真(A)及び生検組織の H-E 染色標本(B)を別に示す。

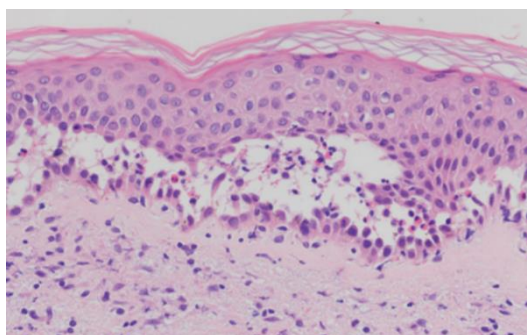
最も考えられるのはどれか。

1. 後天性表皮水疱症
2. 尋常性天疱瘡
3. 水疱性類天疱瘡
4. 疱疹状皮膚炎
5. 落葉状天疱瘡

A



B



臨床統合試験問題

第 29 問

42 歳の女性。関節痛を主訴に来院した。1 年ほど前から眼の乾燥感を自覚していた。自宅近くの眼科を受診し、ドライアイと診断され点眼薬の処方を受けている。3 か月前から手のこわばりと両側手指の関節痛を自覚し、症状が改善しないため受診した。体温 36.5 °C。脈拍 72/分、整。血圧 124/82 mmHg。眼球結膜に充血を認める。舌の乾燥を認める。心音と呼吸音とに異常を認めない。右中指近位指節間関節と両側手関節に圧痛を認める。尿所見：蛋白(－)、潜血(－)。血液所見：赤血球 410 万、Hb13.7 g/dL、Ht38 %、白血球 3,400(好中球 72 %、好酸球 2 %、好塩基球 1 %、単球 12 %、リンパ球 13 %)、血小板 17 万。血液生化学所見：総蛋白 7.0 g/dL、AST 23 U/L、ALT 25 U/L、 γ -GT 34 U/L(基準 8～50)、尿素窒素 17 mg/dL、クレアチニン 0.6 mg/dL、血糖 96 mg/dL、HbA1c 5.4 % (基準 4.6～6.2)。免疫血清学所見：CRP 0.3 mg/dL、リウマトイド因子<RF>128 IU/mL(基準 20 未満)、抗核抗体 640 倍(基準 20 以下)。

診断に最も有用な自己抗体はどれか。

1. PR3-ANCA
2. 抗 SS-A 抗体
3. 抗 MDA5 抗体
4. 抗 dsDNA 抗体
5. 抗アクアポリン 4 抗体

臨床統合試験問題

第 30 問

フレイルの予防策として誤っているのはどれか。

1. 毎日歯を磨く。
2. 運動習慣をつける。
3. よく噛んで食べる。
4. 蛋白質摂取を制限する。
5. ボランティアなどの社会活動に参加する。

臨床統合試験問題

第 31 問

口腔悪性腫瘍について正しいのはどれか。2 つ選べ。

1. 組織生検は禁忌である。
2. TNM分類で T1 は病変が 1cm以下であることを意味する。
3. アルコールとたばこは口腔がんの危険因子である。
4. 組織型で最も多いのは扁平上皮癌である。
5. 口腔がんは全がんの約 12%である。

臨床統合試験問題

第 32 問

口腔疾患について正しいのはどれか。

1. 紅板症は細菌による急性炎症である。
2. 扁平苔癬は潜在的口腔悪性疾患である。
3. 口腔白板症は約 50%が癌化する。
4. アフタ性口内炎は上皮化に水疱が生じる。
5. 鉄欠乏性貧血で舌乳頭の萎縮が生じる。

臨床統合試験問題

第 33 問

シェーグレン症候群の診断基準に含まれる検査として正しいのはどれか。3 つ選べ。

1. ガムテスト
2. 口唇生検
3. 血清検査 (IgG4)
4. 頭頸部 CT
5. 血清検査 (抗 SS-A/Ro 抗体および抗 SS-B/La 抗体)

臨床統合試験問題

第 34 問

正しいものはどれか。2つ選べ。

1. 口唇裂は、外側鼻隆起と内側鼻隆起の癒合不全により生じる。
2. 口唇裂・口蓋裂の発生頻度は症候性・非症候性で異なり、約 70%の患者は症候性として認められる。
3. 口蓋裂では、耳管機能不全による滲出性中耳炎が 80%以上にみられる。
4. Robin シークエンスでは、小顎症、口蓋裂、舌根沈下等が特徴的である。
5. 舌小帯短縮症により構音障害がみられるものは、青年期に舌小帯切除術を行う。

臨床統合試験問題

第 35 問

複視をきたすのはどれか。2つ選べ。

1. 眼窩下壁吹き抜け骨折
2. 視神経管骨折
3. Le Fort I 型骨折
4. Le Fort II 型骨折
5. 下顎骨骨折

臨床統合試験問題

第 36 問

42歳の女性。自宅近くの歯科診療所で歯科金属のアレルギーを疑われ、検査を勧められて来院した。ネックレスとピアスで皮膚症状を生じたことがある。実施した皮膚検査の写真を別に示す。

この検査で判定するアレルギー型はどれか。



1. I 型
2. II 型
3. III 型
4. IV 型
5. V 型

臨床統合試験問題

第 37 問

62 歳の女性。皮疹と発熱を主訴に来院した。7 日前から感冒症状があり市販の総合感冒薬を内服している。前日から顔面と四肢体幹に紅斑が出現し、口内の痛みと発熱も出現した。体温 38.5 ℃。顔面、四肢および体幹の広範囲の皮膚に紅斑、水疱およびびらんがみられる。水疱とびらの範囲は体表面積の 40 %以上である。眼球結膜充血と口唇痂皮、口腔粘膜にもびらんがみられる。顔面と左上腕の写真を別に示す。内服している総合感冒薬のリンパ球刺激試験 358 %(基準 180 未満)、抗ヒトヘルペスウイルス 6 IgG 抗体価 10 倍(基準 10 以下)で、3 週間後の採血で、抗ヒトヘルペスウイルス 6 IgG 抗体価 10 倍であった。

最も考えられるのはどれか。



1. 固定薬疹
2. 多形滲出性紅斑
3. 中毒性表皮壊死症
4. 薬剤過敏症症候群
5. 急性汎発性発疹性膿疱症

臨床統合試験問題

第 38 問

急性湿疹で見られるのはどれか。2 つ選べ。

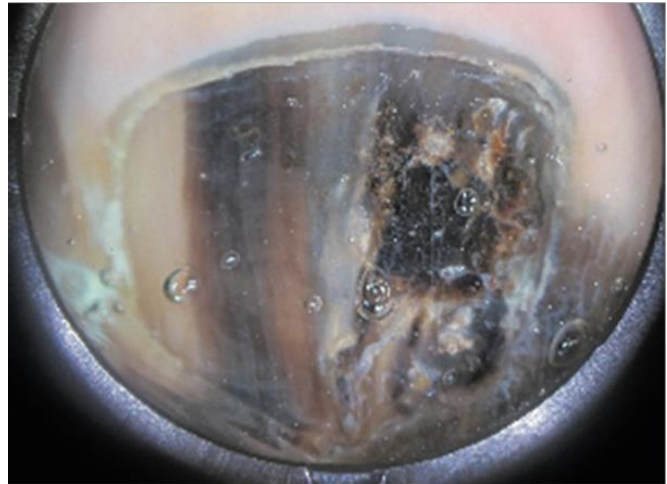
1. 硬化
2. 丘疹
3. 紅斑
4. 膨疹
5. 紫斑

臨床統合試験問題

第 39 問

82 歳の女性。右母趾爪の褐色斑を主訴に来院した。20 年前から同部位に褐色斑が出現した。10 年前に自宅近くの診療所を受診したが良性の皮膚疾患と診断された。半年前から褐色斑が拡大し、自然に出血するようになったため受診した。掻痒と疼痛はない。右母趾に皮疹を認める。圧痛はない。右鼠径リンパ節を触知する。右母趾の写真とダーモスコピー像とを別に示す。

最も考えられるのはどれか。

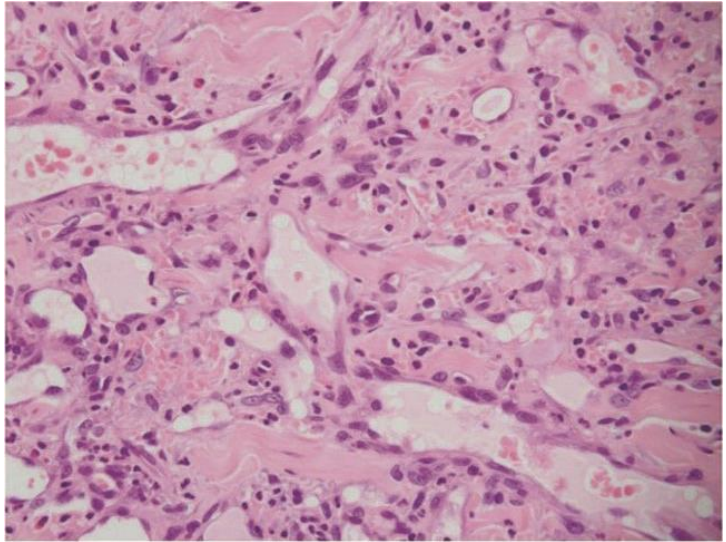


1. Bowen 病
2. 悪性黒色腫
3. 基底細胞癌
4. 色素性母斑
5. 乳房外 Paget 病

臨床統合試験問題

第 40 問

78 歳の男性。頭部の皮疹を主訴に来院した。7 か月前に頭部に紫紅色斑が出現し、次第に拡大、隆起し、出血するようになった。頭部の写真及び同部の病理組織 H-E 染色標本を別に示す。診断はどれか。



1. 血管肉腫
2. 基底細胞癌
3. 海綿状血管腫
4. グロムス腫瘍
5. 巨細胞性動脈炎〈側頭動脈炎〉

臨床統合試験問題

第 41 問

30 歳の男性。体幹と四肢に多発する皮疹を主訴に来院した。褐色斑は出生時から存在し、最近になり結節を生じるようになった。体幹の写真を別に示す。

最も考えられる疾患はどれか。



1. 結節性硬化症
2. 神経線維腫症 1 型
3. Turner 症候群
4. Sturge-Weber 症候群
5. 色素性乾皮症

臨床統合試験問題

第 42 問

43 歳の男性。腰背部、両肘および両膝の皮疹を主訴に来院した。5 年前に発症し、次第に範囲が拡大するため受診した。同部位に鱗屑を伴う境界明瞭な地図状紅斑を認める。両手示指、中指および環指の遠位指節間関節の腫脹を認める。真菌直接鏡検は陰性であった。腰背部の写真を別に示す。

この患者でみられるのはどれか。



1. Darier 徴候
2. Gottron 徴候
3. Köbner 現象
4. Leser-Trélat 徴候
5. Nikolsky 現象

臨床統合試験問題

第 43 問

76 歳の男性。全身の強い瘙痒を主訴に来院した。介護老人保健施設に入所中である。2 か月前から全身に瘙痒があり、瘙痒のために夜も眠れないことがある。腋窩、体幹、四肢、手掌および陰部に紅色の丘疹や掻破痕がみられる。手掌の丘疹部から採取した検体の顕微鏡写真を別に示す。

正しいのはどれか。



1. 蚊により媒介される。
2. 有効な治療薬はない。
3. ヒトからヒトへ感染する。
4. 近年はまれな疾患となった。
5. アトピー性皮膚炎の原因の一つである。

臨床統合試験問題

第 44 問

35 歳の男性。発熱と全身の皮疹を主訴に来院した。8 年前に尋常性乾癬と診断され副腎皮質ステロイド外用薬を塗布していた。7 日前から 39 °C 台の発熱とともに、急速に紅斑が全身に拡大したため受診した。受診時紅斑上に径 5 mm までの小膿疱が多発し、集簇する。地図状舌を認める。血液所見:白血球 16,000(桿状核好中球 15 %、分葉核好中球 70 %、好酸球 3 %、単球 5 %、リンパ球 7 %)。血液生化学所見:血清アルブミン 3.0 g/dL。CRP 15.0 mg/dL。膿疱からの細菌培養検査は陰性、真菌鏡検と Tzanck 試験はいずれも陰性であった。皮膚生検で Kogoj 海綿状膿疱を認める。体幹の写真を別に示す。

最も考えられるのはどれか。



1. 膿疱性乾癬
2. 伝染性膿痂疹
3. 疱疹状皮膚炎
4. Kaposi 水痘様発疹症
5. ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群

臨床統合試験問題

第 45 問

58歳の女性。母指と前腕の皮疹を主訴に来院した。2か月前から右母指に紅色結節が出現し、2週間前から手背と前腕にも同様の結節が多発してきたため受診した。水族館で飼育員として勤務している。受診時、同部位に径15 mmまでの発赤を伴う結節が多発し、表面は一部びらん、痂皮を伴う。局所熱感と圧痛とを認めない。皮膚生検で類上皮細胞肉芽腫と非特異的炎症像が混在する。孢子状菌要素を認めない。生検組織片の真菌培養は陰性、小川培地で7週後に白色コロニーを形成した。手と前腕の写真を別に示す。

考えられる疾患はどれか。



1. 丹毒
2. 化膿性粉瘤
3. 非結核性抗酸菌症
4. 蜂巣炎<蜂窩織炎>
5. スポロトリコーシス

臨床統合試験問題

第 46 問

掻痒を伴わないのはどれか。

1. 蕁麻疹
2. 扁平苔癬
3. 尋常性狼瘡
4. 疱疹状皮膚炎
5. 水疱性類天疱瘡

マークカード記入上の注意（100問用）

- ① 記入にはHBの鉛筆を使用すること。
- ② 「氏名」欄に氏名を記入すること。
- ③ 「番号」欄は7ケタあります。

左から順に

1 ケタ 在籍年次 (5)

2・3ケタ 入学年度の西暦下2ケタ

4～7ケタ 学科・専攻番号（1）、個人番号（3ケタ）計4ケタ

(記入例下参照)

- ④ 1 から 100 までの標示のある欄が各問題の回答欄です。
1 から 50 問までと 51 ～ 100 問までの 2 段になっています。
- ⑤ 記載内容・マークの仕方に不備や間違いがあった場合は採点されませんので十分注意してください。解答の消し残し、択一問題の二重マークは採点から除外します。
- ⑥ 受験番号（学生番号）の記入誤りと鉛筆以外の記入は採点対象外となる場合がありますので注意願います。

【記入例】 令和元年度入学（西暦2019年）医学科5年次105番の場合
（参考：学生番号 B19M1105X）

5 1 9 1 1 0 5

↑ └───┘ ↑ └───┘

学年 入学年度 学科・専攻 個人番号

1 : 医学科

2 : 生命科学科

3 : 保健看護学専攻

4 : 保健検査技術科学

[illegible]